

TASC

Tokai university
Alumni Society of
Communication engineering
department

東海大学通信工学同窓会

(通信工学科・コミュニケーション工学科・情報通信電子工学科)

2014年12月1日号

発行者 東海大学通信工学同窓会
会 長 中西孝夫
URL <http://tasc.gr.jp>
住 所 〒232-0076 神奈川県横浜市中区
永田台43-9
事務局長 土岐晴美 方

東海大学通信工学同窓会の皆様には、平素より本学部の諸活動に多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。特に、本学部・通信ネットワーク工学科の教育に對しましては、勉学と研究に一生懸命取り組んだ学生を卒業式の際に顕彰するなどの学生支援制度を設けて頂き、心より感謝申し上げます。

情報通信学部は2008年に開設され、今年で7年目を迎えました。本学部開設に当たりましては、皆様ご存知の通り、湘南キャンパスの電子通信系、情報系の各学科を発展的に整理・統合し、新たに情報メディア学科、組込みソフトウェア学科、経営システム工学科、通信ネットワーク工学科の4学科を設置致しました。新しい学部ではありますが、東海大学の長い歴史と伝統を受け継いだ学部であり、高輪キャンパスは多くのIT企業が集積する品川地区に近いという立地面でも、内



東海大学情報通信学部
学部長 吉田 正廣 (76卒)

ご挨拶

容的にもまさに東海大学における情報通信に関する教育・研究の拠点としての役割を担っています。本学部の特色の一つとして、産学連携による教育が挙げられます。この教育では、企業の最前線で活躍している技術者をお招きして、最先端の技術に触れる講義を行って頂いたり、「企業研究」や「インターンシップ」などの科目を設けて産業界の状況を学生に理解させたり、職業観を育成する教育を行っているのですが、これらの授業運営では通信工学同窓会会員の皆様にも大変ご尽力を頂いております。また、これまで3回卒業生を社会に送り出しているのですが、就職の面でも…(1)リクルーターとして学生を指導、(2)就職のための特別講座開設及び講演会開催、(3)本学部学生のための特別求人枠の設定、など多方面に亘りまして卒業生の皆様にはご支援を頂き、感謝致しております。その結果、昨年度は就職決定率95・3%という実績

を上げることができました。高輪キャンパスは、東京都心のランドポ上として、東海大学の含む学園の経営戦略的な面で非常に重要な役割を担うキャンパスです。2018年度からは更なる18歳人口減少期に入り、本学部にとつて大変厳しい局面が予想されますが、私達は、常に東海大学全体のことを意識して教育・研究活動に取り組み、情報通信学部を立派な学部に育てると共に、新しい東海大学の伝統を築いて行く所存です。

そのためには、通信工学同窓会の会員を始めとする同窓生の皆様のご支援が必要不可欠です。したがいます。これまで以上に本学部の教職員、卒業生、在学生との交流や連携を深め、高輪キャンパスの発展にご尽力頂ければ幸いです。

通信工学同窓会の更なる発展を期待し、皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。



会 長 中西 孝 夫 (66卒)

活動のご報告

先ず皆様にご報告したいことは名誉会長に松前達郎総長先生、名誉副会長に松前義昭理事長先生のご就任を賜ったことです。この吉報はこれまでの活動実績が評価された結果として皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。これを機に更に活動を前進させたいと思います。

さて本会報では昨年度下期から本年度上期間の活動をご報告いたします。先ず昨年度ホームカミングデー(11月3日)では6号館に同窓会サロンを開設し松尾守之名誉教授(66卒)による「スマホ時代の情報通信の可能性と将来への展望」と題しての講演会を開催しました。その後総合体育館で開催された大懇親会で会員交流の場を持ちました。12月1日には会報発行、3月の学位授与式に

於いては第三回情報通信学部通信ネットワーク工学科の優秀な卒業生を表彰いたしました(参照次頁)。通信工学同窓会賞受賞者名。本年度の上期では高輪キャンパスに於いて定例代議員会を開催、その後の講演会では新しく着任された村山純一教授による「何故セキュリティがニュースになるのか」と題しての講演会を開催、その後キャンパス内で懇親会の場を持ち交流を深めました。また初めての企画として松前重義博士偉業を学ぶ見学会を松前記念館で開催し学芸員の解説も加え改めて松前博士の偉業を学びました。この様な企画は今後も続けたいと考えています。さて当会にとつて大きな事業である名簿の改版発行を昨年度より進め本年度11月末には発行できる運びとなりました。こ

の準備の期間皆様からの強いご支援、ご協力に厚く御礼申し上げます。

名簿発行に關しまして様々のご意見がございますが当会では会員交流の絆でありまた当会活動の原点として、「会員限定のドキュメント名簿」としての発行を続けていきたいと考えています。何卒ご理解をお願いいたします。活動目標に支部活動支援に關し実行できなかったことを反省点として報告します。最後に財政面ですが昨年度よりご寄付も募りましたところ有志の皆様のご支援を得ました。また会費納入も増え予算を超える内容であったこと深く御礼申し上げます。しかし将来を見据えた盤石な運営費用には届きません。何卒未納入の方々のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

2014年度東海大学通信工学同窓会活動方針

1. 全体活動

- 1) 大学同窓会へ学科同窓会として参画
* 校友会活動、同窓会代議員会、ホームカミングデー学部デモなど
- 2) 理事会開催 (定例会：四半期毎)
- 3) 代議員会開催 (定例会：毎年)
- 4) TASCとしてHCD参画、同窓会サロンの開設、講演会開催、広告掲載
- 5) 大学の協力を得て会員資質向上のための講演など企画実施
- 6) 松前重義博士偉業見学会の開催 (第一回 7月12日)
- 7) 会報発行 (全会員宛に活動報告など)、会費納入依頼及び推進
- 8) 通信ネットワーク工学科卒業生表彰(通信工学科のDNAを持つ学科)
- 9) 会員名簿管理 (更新作業) 及び新名簿発行 (12月を予定)
- 10) HP、メール・システム活用と円滑な運用
- 11) 会員交流推進 (クラス会、親睦会など)
- 12) 個人情報保護の徹底
- 13) 大学の学部等の改組に伴う学科同窓会 (情報通信学部同窓会) との協調推進

2. 支部活動

- 1) 支部活動を支援し活性化を図る
支部総会など支援

2013年度 収支決算報告ならびに監査報告

以下のとおり2013年度通信工学同窓会の収支報告をいたします。
2014年4月1日

会 長 中西 孝 夫 (66卒)
会計理事 澤 田 茂 洋 (64卒)

自：2013.4.1～至：2014.3.31			
収入の部			
科 目	予算(a)	決算(b)	執行率(b)/(a)
1. TASC会費	955,250	1,236,000	129%
2. 雑収入	480,000	500,723	104%
(1) 行事参加費	0	0	
(2) 会報広告掲載料	400,000	210,000	53%
(3) 同窓会支援金	60,000	90,618	151%
(4) 寄付金	0	199,848	
(5) ご祝儀	20,000	0	0%
(6) 受取利息	0	257	
(7) 雑費	0	0	
当期収入合計	1,435,250	1,736,723	121%
3. 前年度繰越金	4,697,404	4,697,404	100%
4. 過払金清算未処理金	0	0	
収入の部合計	6,132,654	6,434,127	105%

自：2013.4.1～至：2014.3.31			
支出の部			
科 目	予算(a)	決算(b)	執行率(b)/(a)
1. 運営費	800,000	632,560	79%
(1) 通信費	30,000	14,820	49%
(2) 会議費	95,000	61,018	64%
① 理事会	10,000	0	0%
② 総会・代議員会	75,000	61,018	81%
* 会議費	25,000	23,200	93%
* 代議員会費用	50,000	37,818	76%
③ 監査委員会	10,000	0	0%
(3) 交通費	70,000	55,080	79%
(4) 旅費	20,000	0	0%
(5) 事務消耗品費	15,000	11,475	77%
(6) 情報処理システム費	60,000	54,600	91%
(7) 継承学部統合準備費	60,000	59,417	99%
(8) 慶弔費	350,000	336,000	96%
(9) 振替払手数料	50,000	38,850	78%
(10) 雑費	20,000	1,300	7%
(11) 予備費	30,000	0	0%
2. 支部運営費	80,000	30,000	38%
(1) タイ支部	25,000	0	0%
(2) 北海道支部	55,000	30,000	55%
3. 事業・行事費	1,290,000	1,199,688	93%
(1) 会報発行・会費徴収	1,100,000	1,032,250	94%
(2) 春の講演会	30,000	30,000	100%
(3) HCD	160,000	137,438	86%
① 広告掲載費	50,000	50,000	100%
② チラシ印刷代	40,000	49,800	125%
③ 通信費	10,000	0	0%
④ 講師料	30,000	30,000	100%
⑤ 雑費	30,000	7,638	25%
当期支出合計	2,170,000	1,862,248	86%
4. 次年度繰越金	3,962,654	4,571,879	115%
5. 振込手数料未払金	0	0	
支出の部合計	6,132,654	6,434,127	105%

監査報告

2013年度のTASCの収入及び支出は、関連の帳簿並びに証票の管理を含め、その執行は適切であり、貸借対照表並びに収支決算報告書はその状況を適正に表していると認められる。
平成26年5月11日

東海大学通信工学同窓会

監 事 渡 邊 勝 美 (64卒)
三 ヶ 田 博 亮 (64卒)



総 会 案 内

2015年5月30日 14:30
講演会、懇親会も合わせて高輪キャンパスで開催します
皆様のご出席をお待ちします
<http://tasc.gr.jp>

2014年度 本部役員紹介			
名 誉 会 長 松 前 達 郎 総 長 先 生	名 誉 副 会 長 松 前 義 昭 理 事 長 先 生	参 顧 与 問 山 根 治 仁 (62卒)	松 前 守 之 名 誉 教 授 (61卒)
中 西 孝 夫 (66卒)	小 林 一 雄 (72卒)	柳 沢 晴 美 (88卒)	土 岐 真 一 (88卒)
澤 田 茂 洋 (85卒)	増 田 和 巧 (85卒)	竹 野 信 一 (86卒)	村 田 信 一 (86卒)
渡 邊 勝 美 (66卒)	三 ヶ 田 博 亮 (67卒)		

情報通信学部紹介

通信ネットワーク工学科卒業生の動向など

情報通信学部通信ネットワーク工学科 主任准教授 山 本 宙（特別会員）



2014年は学問の根本を揺るがすような不正論文の話題がありました。通信ネットワーク工学科に直接関係する分野でもセキュリティ、プライバシーに関わるネガティブな問題など我々にとって多くの問題提起がありました。学生を指導する際にも表面的な技術の修得にとらわれず、広い視野で倫理面の指導も十分に行わなければならないという思いを強くしました。

情報通信学部通信ネットワーク工学科は2012年に第1期生の学部卒業生を輩出し、卒業生が社会で活

躍を始めています。この2014年3月には大学院に進学した1期生が修士課程を修了し、最初の就職活動に挑みました。ここ数年就職事情が回復しつつあることが数字に現れるようになってきました。厚生労働省の報告書によると大学学部生の就職率は2012年が93.6%、2013年が93.9%、2014年が94.4%と着実に上昇しています。就職事情の好転は数字の上よりも指導の現場で強く感じられ、以前よりも希望に近い業種、職種に就けるケースが増えたことを感じております。2014年は東海大学全体の就職活動結果が好調で就職率96.2%、情報通信学部も95.3%といずれも全国平均を上回りました。残念ながら通信ネットワーク工学科の就職率は全国平均を上回ることができず、92.9%となりましたが後述するように著名な企業の採用をいただきました。情報通信学専攻の

大学院1期生の就職率は94.1%でした。大学院で学んだ高い専門技術を生かして社会で活躍してもらうことを期待します。学部、大学院生とも就職指導の反省点を洗い出し、100%の就職率を目指して教育、就職指導の強化を行って参ります。

2014年の通信ネットワーク工学科の就職先としてはニフティ、日本ビューレットパッカードなどのソフト、ハードのIT企業、ソフトバンクモバイルなどの通信業が多く割合を占めますが、KADOKAWA、大塚商会などの他業種への就職もありました。今後も専門知識を深めるだけでなくバランスのよい人間形成を行うことを心がけて教職員一丸となって指導していきます。

学園生活

通信ネットワーク工学科 3年
境 友 美



情報通信学部に入學して2年半という月日が経とうとしています。学内では就活に向けたガイダンスが定期的に関われ、就活への意識が高められているように思います。この2年半はあっという間で、「もう就活か」という気持ちが焦りと不安を大きくさせています。就職活動が無事に終えるために、大学の授業を理解し卒業に必要な単位を得ることはもちろんです。しかしこの大学生活で一番しなければならないことは、コミュニケーション能力を磨くことだと私は思います。多くの企業からコミュニケーション能力の高い人を求められている現実だけではなく、自分を表現させるために重要であるからです。

私は大学進学を機に北海道から上京し、いろんな人と出会い、関わるようになりました。私は、この大学で出会った多くの人が「コミュ障」と自分で宣言していることに驚いています。まず「コミュ障」という言葉を大学に入學して初めて聞きました。「コミュ障」とはコミュニケーション障害といって、会話を苦手とする人が当てはまるそうです。人と接するのが苦手という人がいるのは理解しています。でも、「コミュ障」という言葉をつかって逃げているように私は思います。これから社会に出て、もっと多くの人に出会った時「コミュ障」という言葉で済まされるのでしょうか。いくら頭が良くて勉強ができて、言葉で伝えることができれば意味がないと思いませんか。大学生活では、同じ学科の友人、他学科の友人、先輩、教授、外部の講師と大学内だけでも幅広い年代の方々と接することができるので、4年間があれば社会に出るまで十分にコミュニケーション能力を鍛えることができると思います。そして、いろんな話も聞くことができて社会勉強になり、いろいろな人と関わる勇気を持てば、得られることはたくさんあります。

なので、残りの大学生活で勉強はもちろんですが、人との関わりを大切にコミュニケーション能力を磨きたいと思います。

学園生活

通信ネットワーク工学科 4年
土 屋 淳 志



東日本大震災が発生してから4回目の夏。学生生活最後の夏。思い出すのは今までの学生生活のことである。現在4年生である学生たちは、なにか事情がない限り2011年の4月に入學している。その直前、2011年の3月にあの東日本大震災が発生した。入學式や卒業式を取り止めた学校がたくさんあった。幸い私は卒業式を終えてはいたが、湘南校舎で行われるはずだった合同の入學式は中止になった。非常に残念に思ったことを覚えている。その後入學式らしい入學式もなく、私たちの大学生活は始まった。

月日は流れ今はもう4年生。就職先も無事に決まり、来年には晴れて社会へ出て行く身だ。大学生生活を振り返るとこうしていれば良かったと色々考えることもある。しかし今の私がいるのは昔の自分が色々を選択してきた結果である。全ての事をしっかり考えて決めたかと言えるかというところとは言えない。しかし後悔はしない。反省することはあっても後悔することには意味はないと思うからだ。過去は変わらない。4年前の大震災では自然災害以上に人災と言える点が多々あった。防げていた被害が幾つもあったと思う。起きたことは大変な悲劇だ。しかし私たちに出来ることは同じ過ちを繰り返さないことである。そしてより良い世界を築いていくことである。

これから私は社会に出て沢山の選択を強いられると思う。時には最善とはいえない選択をしてしまうこともあると思う。失敗することもあるだろう。しかしその失敗から学び、同じ轍を踏まないことが大切だろうと思う。そして自分の人生をより良いものにしていくのである。

2013年度通信工学同窓会賞の受賞者紹介

優秀賞

蓮沼慎太郎 君
平出 悠祐 君

努力賞

小栗 弘樹 君
戸谷 洋介 君

栗山雄太郎 君
小林 桂 君

安藤 卓人 君
大滝 雄太 君

石井 有基 君
石川知恵蔵 君

甲田 侑輝 君

私たちにしかできない、情報通信分野への貢献。

情報通信関連業務を国内、海外レベルで実施

— 衛星・移動体・LAN・光・IP等 —



国際通信企画株式会社



◇本社◇ 〒222-0033

横浜市港北区新横浜 1-19-2 京浜建物第 5 ビル

TEL 045-470-1331 FAX 045-471-3040

URL <http://www.igrp.co.jp> e-mail icp-net@igrp.co.jp



東海教育産業株式会社

代表取締役 杉下 道生



本 社 神奈川県伊勢原市下粕屋164
TEL 0463-92-1881 (代)
伊勢原旅行センター 神奈川県伊勢原市下粕屋143 東海大学医学部付属病院内
TEL 0463-93-3980 (代)
湘南旅行センター 神奈川県秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館内
TEL 0463-77-3522 (代)
熊本旅行センター 熊本県熊本市東区渡邊9-1-1 東海大学けやき会館内
TEL 096-260-2686 (代)



営業企画室 神奈川県伊勢原市下粕屋164
TEL 0463-93-1870 (代)

★～ム～★ <http://www.tokai-eic.co.jp/>



透析医療を中心に豊富な経験と実績で患者さまの声にお答えします。

医療法人社団 松和会

Medical Corporation SHOWAKAI

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3 丁目 12 番 12 号

TEL 03-5304-5660 FAX 03-5304-5665

URL <http://www.showakai.or.jp>

e-mail : webmaster@showakai.or.jp



宴会場・会議場

様々なタイプの 11 のお部屋で
お客様の多様なニーズにお応えいたします。

レストラン「けやき」フレンチ&鉄板焼

料理を味わいながら眺望も満喫頂ける、
心豊かなダイニング・スペースです。

www.tokai35.jp

〒100-6035 東京都千代田区霞が関 3-2-5

霞が関ビル 35 階

TEL 03-3581-0121 (代表) FAX 03-3581-6200

近況報告

ランシット大学教授 松浦 武信 (74卒)
東海大学名誉教授

私は1979年4月東海大学に奉職し、工学部通信工学科、電子情報学部コミュニケーション工学科、情報理工学部情報通信電子工学科、工学部電気電子工学科で勤務し今年の3月末に定年退職を迎えました。そして5月からタイのランシット大学（略称、RSU）で教育と研究活動が続けることになりました。RSUでは理学部物理学科Biomedical Engineering（BME）Programに所属しております。BME Programには私を含め3人の外国籍（日本、フランス、アメリカ）の教員が勤務しております。これらの3人は英語での講義を担当しております。その他はすべてタイ語での講義です。アセアン諸国の大学は足並みをそろえて8月から新学期が始まっています。私はRSUの他にKMITL（モンクット王立工科大学ラカバン校）の講義も担当しております。

RSUについて簡単に説明させていただきますと、RSUは首都バンコクに隣接するパトムタニという都市にあり、バンコク中心部から60km（渋滞がなければ車で約1時間）ほど離れたところにあります。また大学から車で15分くらいのところにドンムアン空港（国内や近隣諸国への便、日本からのローコストキャリアなども利用）があります。

RSUのキャンパスは東海大学の湘南キャンパスより広く、学生数は2万人を超え、男子学生より女子学生の方が多いという特徴があります。特に、BME Programでは7割程度が女子学生ですので学科内はとても華やかで明るい雰囲気になっています。

プライベートでは、週末にバンコクへ出かけていき合気道の稽古をしています。道場には欧米人、タイ人と数人の日本人と一緒に稽古をしています。

タイへ赴任した直後には戒厳令やクーデターなどでタイ国内の政情が安定せず少し不安はありましたが、現在まで何事もなくタイでの生活を楽しんでいます。

しばらくはタイにおりますのでこちらへお越しの際はランシット大学へもお立ち寄りください。



ランシット大学
キャンパス風景

第45回望星丸海外研修アマチュア無線交信プログラム

「望星丸を追いかけよう」

始めに

2014年望星丸海外研修を日本国内よりアマチュア無線により無線追跡を行いました。このプログラムは出港後の17日「エフエムしみず」モーニングパルで内藤耕団長（文学部文明アジア学科教授）とのインタビューを含め報道されました。先ず残念な報告ですが結果は第一回目ということもあり惨敗。

2013年秋より基地局高輪校舎の清水尚彦先生が中心となり、通信工学科OBの国内のアマチュア無線局15局、18名が東海大学高輪アマチュア無線クラブとして無線により追跡を試みました。追跡は高輪を始め、北海道、新潟他各地のアマチュア無線局により望星丸ウォッチが行われました。

望星丸は出港後の連絡手段がなく、船上時刻も不明なため、予定された時間帯を中心にウォッチならびに呼びかけを試みました。残念ながら結果としては望星丸とは交信不成立に終わりましたが、学生たちが積極的に参加してくれ、初々しい声で、JA1YPFメンバーの方々やローカル局とも交信ができました。

今回の本件の背景や苦労話などを清水尚彦先生、村野公俊先生にまとめていただきました。この経験をもとに次回へと発展させたいと思います。同好の皆様のご参加をお待ちします。

高輪基地局側（JA1YPF）立ち上げまで

清水尚彦先生 情報通信学部組み込みソフトウェア工学科教授

村野公俊先生が望星丸による研修航海において無線局を運用されようとしていたとお聞きしたのは、2013年8月でした。この機会に、高輪の状況を調査したら、短大時代からの歴史を持つJA1YPF局の免許が有効でした。代表の先生は湘南に転勤されていたので、代表者を私に変更し通信工学同窓会の皆様方と議論をしながら、皆様のご協力により、なんとか運用にこぎつけることができました。設備調達へのご協力、運用へのご助言につき、この場を借りて感謝の意を表させていただきます。

現状の設備状況

免許状 JA1YPF (固定局 100W、移動局 50W/20W)
HF無線機 TS-670, FT-707, NRD-525
V/UHF無線機 IC-351, IC-251, VX-3
空中線 HF Vダイポール (7,14,21,28,50MHz),
GP (144,430MHz)



高輪キャンパス内の無線局

望星丸側（J11ZBK）アマチュア無線クラブ奮闘記

村野公俊 工学部電気電子工学科准教授

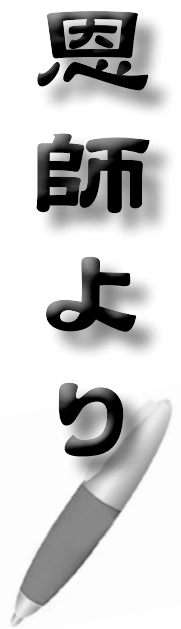
昨年、学科主任から「望星丸に乗ってみたいか？」とのお声掛けがあり、今春実施された第45回海外研修航海に団役員として乗船することになりました。ほどなく実行委員会から「航海中に研修生が参加できるクラブ活動をつくれ」との指示があり、団長としての乗船経験がある旧通信工学科・富山薫順先生に相談しました。ここで「アマチュア無線ができるかもしれない」とのアドバイスを頂き、今回の計画が始まったのです。一方、高輪校舎ではこの計画にご賛同いただいた清水尚彦先生が、高輪校舎のアマチュア無線局JA1YPF復活に向けて活動を開始し本土側と望星丸側の双方で交信の実現に向けての本格的な準備が始まりました。

望星丸側では「船上にアマチュア無線局J11ZBKが開設されている」との情報を受

近況報告

情報通信学部情報メディア学科教授
熱田 清明 (83卒)

工学部の改組改編により2001年度に電子情報学部情報メディア学科に異動し、2006年度には情報理工学部情報メディア学科となり、さらに2008年度には東京都港区にあった東海大学高輪短期大学部[高輪]の後に開設された情報通信学部情報メディア学科に異動し、現在に至っています。1979年に工学部通信工学科に入学し、大学院の5年間を経て、縁あって通信工学科に奉職し、20年以上もお世話になった通信工学科を離れ、東京の高輪校舎に勤務することになるとは私自身も想像していませんでした。2008年度からの6年間は曜日によって湘南校舎と高輪校舎と行く校舎が異なり、行く校舎を間違えるのではないかと心配もしましたが、この4月に湘南校舎の情報理工学部情報メディア学科の最後の卒業生を無事に送り出すことができました。今は完全に高輪校舎に勤務となり、湘南校舎の研究室の片づけで月に1、2回程度湘南校舎に行くぐらいになってしまいました。本来なら研究室の片づけはとくに終わっていなければならないのですが、卒業生の写真や昔の学科パンフレットなどの思い出深い品物が次々と出てきてなかなか思うように進みません。何とか今年度中には終わらせる予定です。来年度以降は卒業式、入学式など特別な行事以外では湘南校舎に行くこともほとんどなくなると思うと少し寂しい気もしますが、今の学科で頑張っていきたいと思います。最後に、スペースの関係で湘南校舎の研究室にあった近藤正三先生時代からの卒業論文の全てを高輪校舎の研究室に移動することができず、古い卒業論文を処分させていただきました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。



木南 恒雄 (72卒)

けて現状調査を始めたところ、ここ数年は運用されておらず、搭載されているアマチュア無線機も故障していることが発覚し、無線設備の整備が始まりました。また同時に無線局の変更申請も必要となり、秋学期の講義の合間を縫って準備を進めました。アマチュア無線クラブが正式に立ち上がり、出港も近づいた1月末、肝心の無線局の免許が出港までに間に合わないという最悪の事態に見舞われ落胆していたところ、通信工学同窓会の皆さんから「村野が開設しているアマチュア局で学生にゲスト運用させてはどうか」との貴重なアドバイスをいただき、急遽体制を整えなおすことになりました。紆余曲折の末、2月15日、ようやく望星丸はアマチュア無線機を積んで清水港を出港することになったのです。

今回の海外研修航海は、東南アジア各国を訪問し協定校との交流を深めることが大きな目的でしたので、従来の南太平洋航路よりも船上での滞在時間が長くはありませんでした。この限られた時間内で、研修生は船酔いと戦いながら協定校との文化交流の準備や船上行事に迫られたため、クラブ活動に使える時間はごく僅かとなり、結果、本土との無線交信の実現には至りませんでした。しかし、インターネットが普及し遠距離通信が身近になっている昨今、自ら設定した無線回線を通じて遠く離れた人々を電波で直接つなごうとする現場に立ち会えたことは、研修生にとって新鮮な経験となったに違いありません。今回の計画にご賛同・ご支援いただきました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

今後への改善点

- 1 交信スケジュールを国際標準時で立案する
- 2 各局の受信能力と空中線出力の向上を図る
- 3 予め望星丸の移動ルートに沿ったアマチュア無線局との交信を行い、各バンドの時間と電波伝搬について検討しておく
(季節による電波伝搬の違いがなかなか難しいが)
- 4 45回はSSBを使いましたが、A1A（電信）も考慮対象にしては如何か
- 5 学内、OBのアマチュア無線技師、クラブ員の増強をはかる

次回の報告では本土と望星丸間の交信の実現がご報告出来ればと心算いたしております。

最後に

JA1YPFの活動とご入会のお願い

JA1YPFは、無線通信、メーリングリストや食事会・飲み会などを通じて、アマチュア無線に興味を持つ東海大学OBや学生たちとの交流を活発化したいと考えています。これまでも、真空管CW送信機や、微小電波通信機（QRpp）など技術的な話題も多く、また、日時を設定したスケジュール交信により、高輪と北海道、新潟のOBとも交信ができました。また、高輪校舎は見通しが良い位置にあるため、空中線設備をご利用される方もいらっしゃいます。ご興味をお持ちの方は下記の清水尚彦先生のアドレス宛ご連絡ください。

nshimizu@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp



無線愛好者の集い

B-CASカード誕生の思い出

皆さんの家庭で毎日楽しまれておられるテレビ放送受信に必須なB-CASカードの方式策定は、郵政大臣の諮問機関である電波通信技術審議会の技術検証機能を担う民間団体である電波産業会（通称ARIB）が中心的な役割を果たした。ここでの構成員である放送事業者や受信機メーカーは、それぞれに検討組織を運営して内容の審査・提案に当たった。

放送事業者の検討組織は、表1に出てくるBS-P協議会で、BS放送事業者を志すNHKやキー局系列5局にスターチャンネル、WOWOWから成る放送8社と、オブザーバとして受信機製造・家電各社を招き構成された。その中の分科会の一つに私が主任を務めたCAS分科会があった。この経験をもとにB-CASカード誕生を振り返ってみたい。既に、発行枚数一億枚を突破したとされるB-CASカードは、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送の有料放送、自動表示メッセージの他に地上デジタル放送を取り込み、データ放送の双方向サービスや間接的ではあるが番組の著作権保護等に利用されている。

B-CASカードを規定する有料放送の方式は、視聴契約条件により視聴できる機能から、コンディショナルアクセスシステム（Conditional Access System, 略称；CAS）と呼ばれ、限定受信方式と訳されている。

表1 BS*放送の変遷と限定受信方式・CAS			
西暦	1980～	1990～	2000～
BSアナログ放送	△'84/5 NHK試験放送開始 △'89/6 NHK本放送開始 △'85 日本衛星放送・現WOWOW®️設立 △'87 COATEC研究所（CAS開発機関）設立 △'91/04有料本放送開始		
BSデジタル放送	△'97/07 BS-P協議会活動開始 △'98/09 BS放送事業者決定 △'99/10 限定受信規格ARIB STD-B25策定 △'00/02（株）B-CAS設立 △'00/12BSデジタル本放送開始		

注*；BS放送（略称；BS）は、放送衛星(Broadcast Satellite)からの放送を意味する。

表1は日本の限定受信方式の登場から現在までの主な関連イベントを、BSを例に示している。またここでは、アナログ放送からデジタル放送への移行を、10年余りの変遷期を並行（サイマル）放送を経て達成した様子が窺える。

BSアナログ放送が始まると、次世代テレビ放送方式の国際的な開発競争も佳境に入った。紆余曲折の中でMPEG2画像圧縮方式が台頭・覇権を得た。日本でも急遽このデジタル方式の検討がスタートすることとなり、この方式の最初の適用メディアとしてBSが選ばれた。

CASの仕組みは、デジタル放送を例に図1に示す通り、暗号技術を用いた送受の端末から成り、アナログ放送においても基本原理は同じである。一方で、基幹メディアとしての放送分野に初登場する有料放送なる新ビジネスモデルは、WOWOW設立の趣意に係る新たな開拓分野に位置付けられるものでもあった。特異性としては、有料放送事業者が顧客を特定する道具として事業者側が管理・貸与すべき専用のCAS・受信端末が必須なことである。

デジタル放送で、このCAS・受信端末の形態を考えると、アナログの様に端末を外付けにすることはスクランブル信号接続の物理的な条件により無理がある。かと言ってCAS専用の受信機とCAS機能を持たない一般放送用受信機との二系統が商品化された場合、量産メリットが少ないCAS受信機の普及等が問題であった。この様な憂いの中、一技術者としてはCAS機能の一部を一般受信機に内蔵してもらい、CASの暗号機能部分のみを有料放送事業者が負担する受信機規格が当初からの目論見であった。

要は、CAS分科会としての議論の結果がこの目論見に整合することである。幸運にも、社内同志とバックアップを得て、有料放送ビジネスへの発展性を提案し、その機能を持つ受信機の魅力を放送事業者とメーカー双方に理解を求める中、積極的な機能活用提案と共に理解者に恵まれる流れとなり、素晴らしいメンバーと共にこの目論見に沿う限定受信方式の標準規格；ARIB STD-B25が策定された。

これにより、B-CASカードの事業化に向けて、製造、流通、管理等の検討に入り、CAS協議会を経て、（株）B-CASと共にB-CASカードが誕生した。

CASは図1の様に、「スクランブル」と「関連情報」の二つのサブシステムから構成されている。この中でデスクランブル部は受信機本体に内蔵され、関連情報部は事業者の運用責任範囲に区分されていて、B-CASカードは関連情報の受信部に位置づけられる。

この関連情報部は三層の秘密暗号鍵システムに守られているが、公開規格の受信機接続部は平文である為、当初よりセキュリティホール課題を伴っていた。その為、カードの更改機能が内蔵されている。

アナログからデジタル時代まで一貫してCASに関われた中で、格別なご指導・ご協力を頂いた方々に、この場をお借りし感謝と御礼を申し上げます。

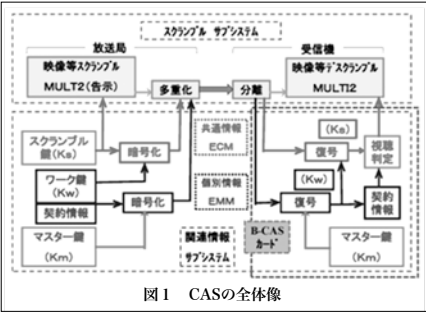


図1 CASの全体像

和のころ 水野 理絵（87卒）



通信工学科に入学して2年目の正月、先輩や同輩と一緒に浅草寺に初詣に行くことになり、お正月ならではのお洒落をしたかった私は「和服で行きたい」と母に我儘を言いました。拵えたばかりの振袖を着たかったのですが、成人式におろすのだからと却下され、母が娘時代に着ていた小紋を着せてもらいました。まだ和服のことなど何もわかっていない頃でした。

地下鉄に乗っていたら、怖い魔女のような老婆が私を見て「なんだその着方は」「そんな姿勢だから着崩れるんだ」「帯が崩れないように座るのは我慢するものだ」などと言い出し、目的地に着くまでずっと叱られっぱなしでした。

その時の写真をいま見ると、確かにこの状態でよく表を歩けたものだと思います。若いって怖い、そして凄い、などと複雑な心境です。思えばあの時に叱られなければ、「このままじゃダメ、自分で綺麗に着られるようになるう」とは思わなかったかもしれません。その何年か後に着付け教室に2年半近く通い、今では厳しい先生にも突っ込まれないくらいには上達いたしました。

先日、facebookで自由参加型のイベントを見つけました。「きものDE交流～着物で街を埋め尽くせ」というタイトルで、和の心を愛する人たちが和服で街を練り歩く、という企画です。「古武道の達人」「津軽三味線の弾き手」「侍の生き方に憧れる」…といった和の達人が揃っているのですが、実は和服を着るのはあまり慣れていない20～30代の若者たちでした。それでも気にせず集まっちゃうところがまるであの頃の私のように、懐かしいやら微笑ましいやら。そんな若い人たちに混ぜてもらって歩く場所もおなじ浅草。

今回のイベントに参加して「とりあえず着て外に出てみればよいのよ」と改めて感じました。私はその人たちがもっと素敵になれるようお手伝いできればと思います。（怖い老婆にはならないよう注意して…。）日本人の心には絶対に和の心が根付いていると思います。年に数回でも和服を着ることで、みなさまもその心を呼び起こしてみたいはいかがでしょうか。

第46回東海大学学園校友会視察旅行を終えて

柳沢 真一（78卒）

松前義昭理事長先生団長の「東海大学の足跡を辿るヨーロッパ視察旅行パートⅢ」に参加してきました。ドイツ連邦共和国ミュンヘン、フランクフルトを中心に、総勢33名で科学技術進歩の歴史と世界遺産を巡る旅です。ドイツは松前重義博士が1931年（S 6）に留学の地、当時博士は横浜からの船旅でイタリアを経由して陸路ドイツに入りましたが我々の旅は羽田から一夜の直行でした。

初日はミュンヘンにあるドイツ史に残る発明の数々を一堂に集めたドイツ博物館の見学でした。すべての展示を見るには、数日かかる世界的規模の国立博物館で、目を見張るものばかりで、松前重義博士がかつてドイツ留学時にきっと見学をされたと思います。

二日目は、ディズニールランド城のモデルとして知られていますノイシュヴァンシュタイン城で、おとぎ話にでてくるようなお城でした。午後はユネスコ世界遺産に登録されているヴィース巡礼教会で、宗教的にも芸術的にも非常に価値の高いロココ建築の最高傑作の教会でした。

三日目は、オプションツアーで、世界遺産のレーゲンスブルグの街並みと大聖堂の見学を堪能致しました。

四日目は、隕石落下跡の盆地にできた城塞都市とシンボル聖ゲオルク教会の塔の内部見学、教会は350段の急階段で、足には自信がありましたが、かなりハードで筋肉痛が数日残りました。参加者の中に81歳の高齢の方も元気に登られ、大変びっくり致しました。

五日目は、ロマンチック街道の北の終着点、ヴェルツブルグの世界遺産レジデンツ宮殿を見学し、その後フランクフルトへ向かいました。ミュンヘンとは趣が違い、高層ビルが立ち並ぶ、金融街で、夜の散策も十分楽しめました。

六日目は、世界三大発明の一つ、活版印刷技術を発明したグーテンブルグ博物館、世界で初めて活版印刷技術で作られた聖書などを見学しました。

午後には、今回視察旅行最後となるライン川を、川の兩岸のブドウ畑や古城を見学しながら気持ち良いクルージングを体験致しました。

今回の研修旅行は、見どころが多く、ゆとりあるスケジュールで、また、毎日、ビール、ワイン三昧で参加者皆様方と大いに親睦が計れた有意義な研修旅行となりました。

来年パートⅣのオーストリアが計画されております。松前義昭新理事長を囲んで、和気あいあい楽しい研修旅行になると思いますので、一人でも多くご参加して頂ける事を期待しております。

最後になりますが、この研修を実施するためにご尽力いただいた関係者の方々に対し感謝いたします。



世界遺産レーゲンスブルク大聖堂前にて

事務局 便り

第一回松前重義博士偉業見学会を開催しました

7月12日松前記念館に於いて18名のご参加の下に開催しました。学芸員篠原聡先生の解説も交え博士の偉業を改めて学びました。今後このような見学会を企画しますのでぜひご参加ください。



偉業を学ぶ参加者

東海大学付属図書館が利用できます

同窓会員は何れかのキャンパスの図書館で登録申請しますと「図書館利用カード」を発行してくれます。また資料の検索はインターネットで可能です。有効に利用して皆さんのお役に立ててください。

来年度2015年度行事予定

5月30日（土） 総会、代議員会、後援会、懇親会を高輪で開催します。

11月3日（祭火）ホームカミングデーに於いて講演会、懇親会を開催します。

見学会は企画が固まり次第メール、ホームページでご案内します。

お願い

＊T A S C活動の情報はホームページ [http:// tasc.gr.jp](http://tasc.gr.jp) をご覧ください。

＊会員の皆様の住所、メール変更情報は jimu@tasc.gr.jp までご連絡ください。

＊代議員になって活動していただける方はぜひご連絡ください。

どんなことでも気軽にお問い合わせください。

事務局長 土岐 晴美（88卒）